

情 報

更生の花は
慈愛の土に咲き



文京区保護司会

主唱 / 法務省

一人になるのが嫌だった。
孤立するのが怖かった。
誰かといないと、不安に押しつぶされそうで。

仲間たちに誘われた時、断れなかった。
自分にとっては唯一で、大切なものだったから、
歪な繋がりにすがりついた。

この街に帰ってきて一年。
色んな人に囲まれて、いま、自分は働いている。

元気がないと気づいてくれる食堂のおばちゃん。
失敗を笑い飛ばしてくれる先輩。
仕事の楽しさも厳しさも教えてくれる社長。
自分が罪を犯しても、見捨てなかった幼馴染。

たくさんの顔が思い浮かぶ。
それにすごく、嬉しくなった。

一人でなんでもできるようになることだけが
自立じゃない。
困ったら、誰かを頼っていい。

きちんと一人、でも孤独じゃない。

#生きづらさを
生きていく。

犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラ
第73回 社会を明るくする運動

7月は“社会を明るくする運動”強調月間・
再犯防止啓発月間です。

社明 しゃめい 🔍 検索

『情報』は文京区ホームページからもご覧になれます。

INDEX

ごあいさつ 2

学校紹介 文京区立音羽中学校 4

地域活動紹介 ガールスカウト東京都第 217 団 6

第 73 回 社会を明るくする運動 7

令和 4 年度文京区三者懇談会 8

令和 5 年度文京区保護司会定時総会 9

会務報告 10

更女だより 11

ホッと一息 あとがき 12

令和五年度を迎えて

文京区保護司会 会長

亀田 一良



先 日五月十一日に令和五年度の定時総会を文京区民センターで成澤文京区長、生駒東京保護観察所長をはじめ多数のご来賓の出席のもと開催しました。事業報告、決算報告、事業予定、予算の議題が承認され、今年度は役員改選の年にあたり田上選考委員長より私が会長に選任されました。

さて今年度は全ての活動を新型コロナ感染症発生前の状態に戻して行っていきたくと思っています。しかし新規感染者が全くなかったわけではありません。現在は毎日の感染者の発表はなくなりましたが、それ以前では東京都で千名位の感染者が出ていましたので、各活動は細心の注意を払いながら進めていきたいと思っています。特に七月に行う「社会を明るくする運動」については五月十二日に文京区の推進委員会が行われ、文京区が取り組む、東京ドーム周辺広報啓発活動・文京大会・文京矯正展が決定しました。特に文京矯正展はコロナ禍、文京シビックホールの改修工事のため地下二階の区民広場が使用できないため三年間開催できませんでした。今年は久しぶりに三大大行事に取り組みたいと思います。

他に大きな行事については、今年は文京区保

護司会が設立されて七十周年にあたります。現在広報部が中心になって記念誌作成の準備をしています。また十二月十二日に今年度表彰される方のお祝いを兼ねて記念式典を行うように準備をしていきます。これから色々と皆さま方に協力をいただきながら進めていきたいと思っています。

また、保護司の考えるデジタル化・省力化についてですが、観察所のH@に現在四十名の文京区保護司が登録されています。文京区保護司会としてどのようにしていけばよいか、検討していきたいと思えます。

今年度一年間よろしくお願いいたします。

「息の長い支援」の充実に向けて

東京保護観察所長

生駒 貴弘



文 京区保護司会の皆様には、平素から更生保護活動に多大なる御尽力をいただきまして、心から感謝申し上げます。

新型コロナウイルスの関係では、ここ数年、更生保護の分野でも様々な困難が生じていましたが、感染症法上の位置付けの変更により、一律の感染防止対策は解除されており、今年度は、引き続き感染防止に留意しつつ、人と人との対話と交

流を基盤とする諸活動をより一層充実させていきたいと考えています。

また、昨年六月に可決成立した刑法等の一部を改正する法律において、満期釈放者や保護観察を終了した者に対する「息の長い支援」を実現するための更生保護法、更生保護事業法の一部改正がなされ、本年十二月までに施行される予定となっています。例えば、更生保護施設では、退所者へのフォローアップ事業として、施設職員の方が随時の相談支援を行うなどの取組を行っています。今回の法改正では、こうした取組も法律上の根拠が明確化されます。再犯防止をより長い時間軸でとらえ、保護観察期間中の再犯防止を図るのみではなく、その人それぞれの犯罪や非行の背景にある「生きづらさ」を把握し、更生保護だけで抱え込むのではなく、その人に合った地域の支援につなげていくことがより一層重視されていくと考えています。

なお、更生保護法人「東京実華道場」を母体とし、文京区内で事業を継続してきた更生保護施設「ステップ竜岡」は、施設の老朽化等により昨年度限りで事業を終了し、今後は、墨田区に所在する同法人経営の更生保護施設「ステップ押上」に事業が一本化されることとなり、現在、同施設の全面改築工事が開始されています。文京区の関係者の皆様のごこれまでの御支援に感謝しつつ、今後とも継続的な御支援をお願いしたいと存じます。

引き続き、更生保護事業の更なる充実を図るため、皆様のごより一層の御支援と御鞭撻を何卒よろしくお願いいたします。

「皆様の活動に支えられて」

文京区福祉部長

竹越 淳



日頃より、保護司会の皆様方におかれましては更生保護事業にご尽力いただきまして、心よりお礼申し上げます。

令和元年度末より長らく日本を襲った新型コロナウイルス感染症も、本年5月8日に取り扱いが2類から5類へと変更され、私どもの生活スタイルもこれまでの数年間から大きく様変わりすることが予想されています。これまで、コロナ禍においても、地道な活動を続けてきたことに改めて感謝を申し上げますとともに、引き続き感染対策にご配慮いただきながら、更生保護活動に取り組んでいただければと思います。

例年7月に実施しております「社会を明るくする運動」については、昨年度はこれまでにない猛暑の影響により、東京ドーム周辺広報啓発活動は残念ながら中止せざるをえませんでした。また、矯正展はシビックホール改修工事の影響でこちらも中止となりました。

その一方で、「社会を明るくする大会」については、昨年7月10日に感染対策をしっかりと講じたうえで、令和元年度以来3年ぶりに、中学生による意見発表を行ったほか、NPO法人キッズドアの松見様をお招きして講演会を開催

いたしました。また、11月9日には文京シビックセンター及びその周辺において啓発活動を実施いたしました。

この数年間、保護司会の皆様方は、感染対策に心を配り、各種事業が円滑に実施できるよう、常に前を向いて精力的に活動されてまいりました。

今年度も、地域における青少年健全育成施策の中心的な役割を担う皆様方と、子どもたちが健やかに成長することのできる地域環境をともに創り上げてまいりたいと存じます。

今後とも皆様方のお一層のご支援、ご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

着任のご挨拶

東京保護観察所保護観察官

荒井 智深



文京区保護司会の皆様、関係機関の皆様には、平素より更生保護の諸活動にご尽力を賜り、心より感謝申し上げます。

文京区におかれましては、保護司の皆様をはじめ、関係機関の皆様のご協力のもと、社会を明るくする運動などの活動が盛んに行われています。伝統的な文化と新たな文化の調和と発展し続ける文京区を担当させていただき、大変光

栄に存じます。

私は、昨年（令和4年）9月に東京保護観察所薬物施策対策班の保護観察官として補職され、薬物再乱用防止プログラムの実施に邁進しておりました。地区主任官として働くのは初めてですが、保護司の皆様や関係機関の皆様と円滑に連携できるよう精進いたしますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

私が保護観察官を目指したきっかけは、精神病院の精神保健福祉士業務に従事する中で、精神科疾患によって犯罪が引き起こされた人が治療によって改善する過程、そして何よりサポートの大切さを痛感した経験から、将来はこのようなケースを担当する仕事に就きたいと思ったことがきっかけでした。その後、地域の福祉行政サービスを体系的に学ぶため、市役所の社会福祉主事として、身体・知的・精神・難病等様々な障害をもつ方の地域生活と権利擁護に関する相談援助業務に携わりました。当事者を中心として多くの人との協働により支援の輪が広がり、支援体制が機能して行く、改めて地域のネットワークの大切さと魅力を感じました。

前職の京都大学医学部附属病院精神科神経科では、身体合併症を含む精神疾患や、リエゾン精神医学、心理・社会学等に関する専門知識を身につける一方、京都地方裁判所の精神保健参与員も兼務して参りました。これまでの経験を活かし、これからの仕事を通して出会う多くの方々から学び感謝し、日々成長して行きたいと思っております。今後ともお力添え賜りますようお願い申し上げます。

「チーム音羽」

「結束して「自己実現できる学校」、「文京一の学校」を実現する」

文京区立音羽中学校長 齊藤 正富

は

じめに、本校の歴史について紹介します。平成二十一年四月一日に、旧第五中学校と旧第七中学校が統合されて、開校した文京区内で最も新しい中学校です。校舎は、地上六階、地下二階建て。校庭は、校舎の敷地と離れ、道を挟んで向かいにあるお茶の水女子大学の敷地の西端に位置しています。隣接する新大塚公園を、昼休みに本校の生徒が、体を動かしたり、緊急時には施設外に避難する必要が生じた際の、避難場所として使わせていただいています。

次に、本校の学校運営を支えてくださる「学校運営協議会」と、教育活動を支えてくださる「地域学校協働本部」について紹介します。本校は、平成二十三（二〇二一）年度から、コミュニティ・スクールとなり、地域の方々の考えを取り入れた学校運営に取り組んでおり、年十回、学校運営協議会（学運協）を開催しています。例えば、次年度の入学説明会

います。また、生徒、保護者に対して「学校評価」として実施する調査の集計結果とその分析を学運協において報告・共有し、学校のホームページにも掲載

しています。この調査は、「学校関係者評価」の重要な資料ともなります。地域の意見も反映した学校運営を実践する上で、的確な意見をいただいています。

生徒の力を伸ばす取組を推進する方策を模索する際に、学校、保護者、地域それぞれの考え方を融合させ、学校は、保護者や地域学校運営に活用する機会を創出することに併せて、活用する意識を醸

前に、来校者に配布する資料の内容を協議したり、給食の試食をしたり、町会関係者や生徒の代表者との意見交換を実施したりして

成することが課題と感じています。

コミュニティ・スクールは、校長の学校経営方針も学運協の協議を要する事項であるなど、学校の教育活動の質の向上のために、真に地域と連携して取り組むことが重要です。併せて、学校の実態から浮かぶ数多の課題等の改善、解消に向けた協議を重ねることは、コミュニティ・スクールの真骨頂だと認識しています。

私が着任する前から継続協議の一つである標準服の仕様変更については、「令和六年度の新入生」から実施することとなり、引き続き関連する情報や課題の共有を図りながら取組を進めています。

さて、三年以上学校における教育活動を滞らせた新型コロナウイルスによる感染症の感染状況については、収束とは言えないものの陽性判定者は低い数字で推移しています。もちろん予断は許しませんが、一時に比べて規制が緩和され、令和五年五月には、二類感染症から五類感染症への移行も決定しています。このことについては、感染予防策を講じるが前提になりますが、子どもたちの活気にあふれた活動を取り戻さなければなりません。本校では、単にコロナ禍以前の活動形態に戻すのではなく、実施にあたって、学校の実態を検証して、新たな取組として、より



連合演奏会

よい活動を創造することを前提に教育活動の実践に取り組んでいます。そして、教育活動を進めるにあたり、心強い存在が「地域学校協働本部」です。こちらは、部活動が始まる



運動会

と参加する生徒の見守り、昨年度から再開した職業体験（二年）では、受け入れる事業所探し、防災宿泊体験（二年）では活動への支援など、子どもたちの活動を見えないところから、しっかりと支えていただいています。このように、本校では、教職員の取組に加えて、保護者・PTAと地域・学校運営協議会・地域学校協働本部の皆様が、学校を盛り立ててくださることで充実した学校運営がなされています。

生徒は、日々学習、運動等の学校生活に取り組んでいます。私はほぼ毎朝正門に立ち、生徒を迎えるところから、一日を始め、校内の巡回をしています。見た限り落ち着いて取り組んでいる生徒ばかりです。生徒一人一人と十五分程度の面談も実施しています。

生活指導では、中学生ですからいじめにつながりかねないトラブルを含めて、問題行動

が起こることもあります。一つ一つの事案を、迅速に状況を把握し、的確かつ丁寧な一人の生徒の成長に必要な指導を実践しています。

令和四年度は、八ヶ岳移動教室や修学旅行といった宿泊行事が実施できました。何より、行事を通じて、生徒の成長を実感できた一年になりました。今年度、運動会をコロナ禍以前よりもよいものにすべく準備を進め、学習発表会は、文京区教育委員会の支援をいただき、文京シビックホール（大ホール）で開催します。各行事に向けて、生徒が主体に取り組んでおり、個々の力、学年・学校のまとまりがさらに向上できると期待しています。

学校を休みがちな生徒は各学年に複数おられますが、本人、保護者と連絡を密にとり、私も面談を行いました。その都度、専門的な対応ができる職員や関係機関と連携しながら、一人一人に適した支援と学習は、オンラインを通じた指導を含めて取り組んでいます。

教職員は、丁寧な面談がよいと自負しています。学習指導では、英語・数学を全学年で



職業体験

少人数授業を行い、理科は一年が複数教員による指導、二年で少人数授業を展開しています。また、これまで放課後の学習支援を実施していましたが、夏季休業中に絞って実施することを含め、学習習慣の確立と定着にも取り組んでいます。定期考査前の質問教室には熱心に参加する生徒が少なくありません。一人一台の活用が始まったタブレット端末は持ち帰りを推奨して、家庭での活用も促しています。

冒頭に申し上げた新型コロナウイルスを含めた感染症対策は、今後、書面による健康観察等の取組を緩和し、体調が悪いときは、休養と回復を優先させるなど、引き続き学校を介しての感染防止を徹底させるために、保護者への協力を呼びかけます。校内の換気徹底に向けて二酸化炭素濃度の計測器を活用した確認等、十分な換気を確保に努めます。給食時は、食前の手洗いの徹底と十分な換気の確保に努める一方、「黙食」を強制しません。

本校では、これまで述べてきた教育活動を「チーム音羽」として実践し、安全な学校と安心して通う、通わせることができる学校として、さらに「自己実現できる（なりたい自分になれる）学校」、「文京一の学校」の実現を目指して、引き続き取り組んでまいります。

人生を支える食の体験をめざして

ガールスカウト東京都第217団リーダー 加藤百合子

少

女と女性にとって、より良い社会を目指すガールスカウトが始まって百有年あり。私たち217団が文京区に誕生して、三十年が過ぎました。就学一年前の幼児から高校生までが、五部門に分かれて、野外活動や奉仕活動など、年齢や特性に応じた様々な活動をしておりませんが、今回は「食」に関する活動についてお話しします。

例年、公共施設の調理室を使用して、年に二、二回のクッキング集会を部門別に企画します。幼児と小学校低学年では、指導者と一緒に決められたメニューを作りながら、包丁や、火の扱い方など危険を伴う作業もします。がんばって作った料理は特別においしく、みんなで一緒に楽しく食べる喜び、達成感が、自信と食への興味につながります。

小学校高学年になると、グループごとにメニューを考えたり、予算を立てて、買い物に行く事もあり、調理の技術や知識を身につけて、幅広いメニューに挑戦します。まだまだ指導者が関わりながらも、美味しい食事が出来上がります。豊富な人材を誇る217団では、料理教室講師、喫茶店経営者に、ベテラン主婦、パ

ティシエ修行中の学生リーダーなど多彩な指導者が関わり、こうした体験がきっかけになるのか、料理が好きで、ご家庭でもお手伝いをする子が多いようです。

さて、中学生高校生は、自分たちでメニューを決めて、買い物をして、調理するのは当然。時には、成長期に必要な栄養や食品ロスを学んだり、出汁を取る所から和食を作った際には、干し椎茸の戻し汁が美しい出汁になるのを知らず、捨てようとしたのを慌てて止めた事もありました。コロナ前には、スカウトフェスティバルで販売するクッキーを何種類も焼き、毎年大好評でした。

こうした集会がキャンプでの野外炊飯につながります。水道がなく、まず水くみから始まるキャンプ場もあり、限られた時間と設備の中で、薪で火をおこし、飯盒でご飯を炊き、カレー等を作りますが、火をよく見ていないと、カレー



もご飯も焦げてしまいますし、冷たい水で、焦げた鍋を洗わなくてはなりません。指導者はなるべく手を出さないので、グループ内でケンカをしたり、上手にできない事もありますが、経験を積んだ子供たちが、調理手順や作業に的確な指示を出すと、指導者は味見だけ。手際の良さに感心する事が何度もあります。グループ内で分担を決め、それぞれが役割を果たし、協力して調理する事は、協調性や、リーダーシップを育む大変貴重な機会になります。

調理が、ガールスカウトが取得すべき技術の一つである意味を考えると、それは、集会の度に宣言するガールスカウトのやくそく、「私は(略)地域と国と世界への責任を果たし、人に役立つことを心がけ、ガールスカウトのおきてを守ります」に繋がるでしょう。

食事を作るのは、決して女性だけの役割ではありませんが、良質な食生活は、心身の成長健康にとって必要なだけでなく、家族や仲間と一緒に作った楽しい食事の体験は、あたたかな記憶となって、人生を支えるはず。そして、217団で育つ少女たちの側に、もし、心や身体が疲れた家族や友達がいたら、スツと温かな食事を作れる人になって欲しいと思います。

第73回 社会を明るくする運動

犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラ

社会を明るくする運動は、すべての国民が、犯罪や非行の防止と罪を犯した人たちの更生について理解を深め、それぞれの立場において力を合わせ、犯罪や非行のない明るい社会を築こうとする全国的な運動です。文京区では「文京区社会を明るくする運動推進委員会」を組織し、例年地域に根ざした運動を実施しています。

犯罪からの立ち直しには本人の努力はもとより、周りの人の応援や地域の中に「居場所」があることが大きな後押しになります。立ち直ろうとする人を受け入れ、支える方法はさまざまです。何が出来るかを一緒に考え、出来ることから始めてみましょう。

文京区社会を明るくする運動推進委員会（構成 30 団体）

- ・文京区
 - ・文京区保護司会
 - ・文京区更生保護女性会
 - ・文京区青少年健全育成会（9 地区）
 - ・文京区立小学校長会
 - ・文京区立中学校長会
 - ・文京区立小学校 PTA 連合会
 - ・文京区立中学校 PTA 連合会
 - ・文京区町会連合会
 - ・文京区民生・児童委員協議会
 - ・文京区社会福祉協議会
 - ・文京区内警察署少年補導連絡会（4 地区）
 - ・防犯協会（4 地区）
 - ・文京区青少年委員会
 - ・文京区商店街連合会
 - ・東京青年会議所文京区委員会
- （順不同）

東京ドーム周辺広報啓発活動

日 時：

令和 5 年 7 月 8 日（土）15 時 45 分～

* 少雨決行

場 所：東京ドーム周辺 等

* セレモニーはラクーアガーデンステージ

内 容：啓発用絆創膏・ティッシュ等を配布し、運動の趣旨を呼びかける。

昨年11月の文京シビックセンター周辺広報啓発活動



文京区社会を明るくする大会

日 時：令和 5 年 7 月 9 日（日）

13 時開場 13 時 30 分開会

場 所：文京シビックホール 小ホール

内 容：(1) 青少年の意見発表（第八中・第九中・第十中）
(2) リアン文京総合施設長 山内哲也氏による講演

文京矯正展

日 時：令和 5 年 7 月 20 日（木）～ 22 日（土）

9 時 30 分～ 16 時（最終日のみ 15 時まで）

会 場：文京シビックセンター地下 2 階 区民ひろば

内 容：刑務所作業製品の展示・販売

いずれも状況に応じて中止・延期、または規模を縮小する場合があります。



令和4年度 文京区三者懇談会

日時 令和5年3月3日（金）18時30分～
場所 文京区民センター2A
内容 東京実華道場からの情報提供



保

護司会、更生保護女性会、更生保護法人東京実華道場と連携し毎年開催している。今年度はステップ竜岡施設長倉住侯一郎さんから話を伺い、その後質疑応答、懇談を行った。開会に当たり、森山秀実理事長から日頃の支援・協力に対する感謝と令和4年12月までに全寮生の送り出しを終え、令和5年3月で「ステップ竜岡」を閉鎖するとの話があった。

〈倉住侯一郎施設長の話〉

1 写真deステップ竜岡めぐり：パワーポイントで58枚の写真を映して紹介：

男性収容施設で収容定員は成人男子16名・青少年1名。職員は補導職員5名・夜間専従職員2名・調理員1名・清掃員2名。建物は木造2階建184平方メートル。居室（個室、2人部屋）、浴室、洗面所、食堂、台所、娯楽室など。食堂で寮生を労うためのクリスマス会や更生保護女性会とのカレー作りなども実施。台所では包丁を使った自炊も可能。鉢も含め刃物を使わせない施設が多いが竜岡では生活訓練を兼ね使用可。今まで事故は無い。入浴は個人浴で毎日常時可能。自動洗浄機付きトイレや手摺り、ベッド

も用意。鍵付きロッカーを設け貴重品は自己管理。儉約を学ばせる意味でエアコンは有料（100円/2時間）。喫煙所も中庭に設置。コロナ感染者対応の部屋も確保。事務所にオープンスペースの相談ブースあり。相談は寮生の立場に応じて寮生の都合のよい時間に実施。事務所隣の蔵は、昭和17年北見実華道場東京出張所設立当時、寮として使用していた建物。

2 事例紹介 — 罪を犯した知的障害を抱える方の補導援助 —

万引、自転車盗をした高齢男性への援助。金銭管理、諸手続、トラブル対応が不得手で、兄弟の住む地域の障害者グループホーム入居を希望。そのために、基本的な日常生活のための環境整備。退所後の生活環境探しの応援。安心できる環境を手に入れて再出発。を3本柱として援助に当たった。その実現のために、6ヶ所の関係先への同行や7ヶ所の関係先との連絡調整を行った。本人の希望した施設への入居はできなかったが、福祉事務所と相談調整の上、他施設入所ができた。現在も日常的に支援に当たっている。

3 東京実華道場の生い立ち

処遇理念…去華就實（外見の華やかさ

を取り去り、実際に役に立つ人間になる）前身は昭和12年北海道北見市に設立した「北見実華道場」。昭和17年東京出張所を本郷区竜岡町（現文京区湯島）に設立。その後「東京実華道場」として独立、後に更生保護施設「ステップ竜岡」「ステップ押上」と名称変更。「ステップ押上」は、令和5年3月末で閉鎖。「ステップ押上」は改修工事を行い、令和6年4月、4階建て、全室個室、エレベーター完備、LGBTを含め様々な方を受け入れる収容人数30名の施設として生まれかわる。

〈質疑応答・懇談〉：紙面の都合上全てを掲載できませんでした。お許しください：

- ・訪問支援は本人同意の上実施。今後民生委員などとの連携により地域で見守れる環境ができるとうい。
- ・更生保護女性会と寮生との食事作りは、寮生の更生への動機づけ、次への頑張りに繋がった。
- ・人間らしさを大切にする人権が守られている施設だと感じた。
- ・寮生の退所後の生活の質の向上を見据えた対応がされていることに感激した。
- ・更生保護女性会の役割、大切さが分かった。などの意見や感想が出された。

（文責 深野幸江）

日 時：令和5年5月11日（木）16時～17時30分
 場 所：文京区民センター2A
 出席者：64名（保護司50名 来賓14名）
 来 賓：14名

文京区長、東京保護観察所長、文京区担当主任官、更生保護女性会長、文京区福祉部長、文京区福祉部福祉政策課長、文京区福祉部福祉政策課地域福祉係（係長、職員2名）、桐友会（支部長、会員2名）、所轄警察署各少年係長（2名）



令 和2年に始まったコロナ感染の広がりも、本年5月8日付にて国の感染症法上の位置付けが2類から5類（インフルエンザ並）となり通常の生活になってきた中での総会となりました。成澤区長、生駒東京保護観察所長、荒井文京区担当主任官、関係団体からの来賓、文京区職員を含め14名のご来賓に出席いただきました。総会

は恒例となりました保護司信条を全員で唱和、議長選出、すべての議案が満場一致で承認となりました。

亀田会長が再任され、5人の副会長も決まり新たな体制となりました。亀田会長の「コロナ感染にも考慮しつつ、3年前のコロナ前の通常活動をしていきたい、また本年は文京区保護司会発足70周年に当たり記念式典を予定、記念誌の発行も予定しているので、保護司会の皆さんの協力をお願いしたい。」との言葉に今年の意気込みが感じられました。また区長の「コロナの時期を経験して思うのですが、町会その他いろいろな地域の活動、保護司の1年を通じた活動により、人の手と目と耳が良く届くと犯罪は抑止できるという事です。コロナの3年間は人との大切な接触が限定されたという事で、犯罪そのものの件数は減っているが、治安を維持する為の体力が弱ってきていると実感しています。先ほど亀田会長が、今年はずっとも活動を復活して感染対策にも気を付けフルパッケージの活動をしていきたいとお話でしたが、今まさに必要な事と思います。今年はそのような活動がすべて展開する事を祈念いたします」という言葉をいただき、保護司全員引き締まる思いでした。総会も無事終了後、来賓の方々、文京区保護司会の正副会長にお集まりいただき記念撮影を

行いました。コロナ前までは、この後懇親会が開かれ歓談が行われていたのですが、残念ながら感染を考慮して、本年も非開催となりました。しかしその後別席を用意いたし、感染を考慮した上で有志の方々により歓談を行いました。今後の全員での懇親会が出来る事を願っています。

（総務 加文字秀次）

福祉部福祉政策課
地域福祉係の皆さん

富谷俊一さん（後列・左） 佐藤快さん（後列・中央） 玉井厚子さん（後列・右）
 5月31日退職
 櫻井智子さん（前列・左） 木村健さん（前列・中央） 安藤浩子さん（前列・右）

会務報告

■令和5年度定時総会

令和5年5月11日(木) 16:00～17:10
於：文京区民センター2A
出席者：50名 来賓13名
令和4年度事業報告・決算報告・会計監査報告
令和5年度事業計画案・予算案、可決
会長に亀田一良氏再任 (伊藤記)

■合同班会

令和5年2月7日(火) 18:30～20:00
於：文京区民センター3A
出席者：45名
講師：古川智之(保護観察官)
テーマ：「援助の原点」～アディクトたちとの出会いと自己の回復について
(関口記)

■三者懇談会

令和5年3月3日(金) 18:30～20:10
於：文京区民センター2A
出席者：29名 更女13名 実華道場職員3名
東京実華道場から情報提供を頂き
保護司会、更生保護女性会、東京実華道場の三者で連携し懇談会を行った
(今井記)

■正副会長会議

令和5年3月1日(水) 18:30～19:30
於：文京区民センター4A
出席者：4名
3月の理事役員会について、会計監査、4月理事役員会議日程及び次年度正副会長会議の場所について (伊藤記)

■会計監査会議

令和5年4月1日(土) 18:30～19:30
於：文京区民センター4A
出席者：4名
4月の理事役員会について検討
福祉政策課の人事変更があり理事会に出席を依頼する
(伊藤記)

5月総会後の懇親会について検討 (伊藤記)

令和5年5月1日(月) 18:30～19:45
於：文京区民センター4A
出席者：10名
定時総会、70周年記念事業、社明運動大会、矯正展について (伊藤記)

■理事役員会議

令和5年3月23日(木) 18:30～19:40
於：大原地域活動センター2F
出席者：21名
定時総会実施に関連団体ゲストを招致するのかを検討
各部、各班の事業報告及び会計報告他 (伊藤記)

令和5年4月13日(木) 18:30～19:45
於：大原地域活動センター2F
出席者：25名
田上委員長より役員選挙委員会報告
会長亀田氏再任、令和4年度決算報告及び監査報告、令和5年度会計予算案及び各部各班の事業計画、定時総会について (伊藤記)

■会長選挙委員会

令和5年3月4日(土) 15:00～16:15
於：文京区民センター4A
出席者：9名 他1名
各班2名の選挙委員より亀田一良氏の名前が上がり全部の班が揃っていた
70周年記念行事もあり、他区会長の顔を知っている亀田氏が適任という意見も出た (山上記)

■会計監査会議

令和5年4月3日(月) 15:00～16:00
於：文京区民センター4B
出席者：5名
令和4年度の会計内容につき監事、会長の監査を行い承認印を頂く
事務連絡、検討 (伊藤記)

令和5年4月21日(金) 18:30～20:10
於：文京区民センター4B
出席者：10名
記念式典は12月12日、東京ドームホテル
天空の間、内容検討、会費及び予算の確認 (伊藤記)

令和5年4月18日(火) 9:50～13:00
於：槐の会、小石川福祉作業所、福祉部、青少年相談室、サポセン
出席者：2名 他1名
保護司会関係の各施設へ案内・説明 (伊藤記)

■荒井智深主任官を区内施設案内、説明

令和5年4月20日(木) 10:30～12:00
於：伊藤宅
出席者：2名
定時総会準備における打合せ、資料作成 (伊藤記)

令和5年4月28日(金) 18:30～19:40
於：文京区民センター4A
出席者：14名
定時総会打合せ、役割配分、式次第検討 (伊藤記)

■広報部会議

令和5年3月3日(金) 14:30～17:00
於：文京区民センター2B
出席者：6名
情報578号 校正及び会議 (山田記)
情報579号 編集及び会議 (山田記)

■その他外部団体への参加

令和5年3月24日(金) 14:00～15:00
於：文京シビックセンター4A
出席者：10名 更女5名
情報578号 号発送作業及び会議 (山田記)
令和5年4月6日(木) 14:00～16:30 (山田記)

於：大塚地域活動センター団体室・多目的室
出席者：11名
70周年記念誌チーム別検討会議 (堀内記)

令和5年4月25日(火) 18:30～20:30
於：文京区民センター3D
出席者：11名
第8回70周年記念誌検討会議
発行部数300と決定。塩川氏に概算見積依頼。原稿依頼先、文字数、原稿締切日など検討 (山田記)

■保護司が参加した行事

令和5年5月16日(火) 14:30～17:00
於：文京区民センター2B
出席者：3名
年表チーム行事名の統一、サポセン開設日の確認など (山田記)

令和5年2月7日(火) 13:30～15:30
於：東京保護観察所集団処遇室
ブロック別保護司組織運営連絡協議会について (亀田記)

■学校との連携

令和5年3月31日付
駒込班 嘉明氏
令和5年5月14日付
富坂班 侑司氏
田上 侑司氏
高飾区へ異動
令和5年3月
本富士班
金井 輝夫氏

令和5年3月20日(月) 9:20～11:00
於：第一中学校体育館 (堀内記)

令和5年4月6日(木) 10:00～11:00
於：明化小学校体育館 (山上記)

令和5年4月6日(木) 10:10～11:30
於：窪町小学校体育館 (堀内記)

令和5年4月6日(木) 10:00～11:30
於：汐見小学校体育館 (山本記)

令和5年4月7日(金) 10:00～11:00
於：第一中学校体育館 (堀内記)

令和5年4月7日(金) 10:00～11:30
於：第十中学校体育館 (山上記)

令和5年3月31日付
駒込班 嘉明氏
令和5年5月14日付
富坂班 侑司氏
田上 侑司氏
高飾区へ異動
令和5年3月
本富士班
金井 輝夫氏

令和5年3月31日付
駒込班 嘉明氏

令和5年5月14日付
富坂班 侑司氏

令和5年3月
本富士班
金井 輝夫氏



令和5年度 文京区更生保護女性会総会

日時 令和5年5月19日(金) 13時
於 文京区民センター2A



コロナ禍も明け5月19日、令和5年度文京区更生保護女性会総会が文京区民センター2Aにて開催されました。

開会の辞、綱領斉唱、物故者への黙祷、ご来賓の皆さま方よりご祝辞を賜りました。

今回は清興もあり、チェロユニット『Duo Sawa-Ri』のお二人による懐かしい名曲を織り交ぜた生演奏を30分ほど堪能させていただきました。会場のサイズもあつて臨場感のある贅沢なひと時となりました。その後、ご来賓の皆様から文更女への温かい労いのお言葉、また今後の文更女活動へのご期待のお言葉を頂き議事に入りました。議事では令和4年度事業・決算・監

査の報告、そして令和5年度事業計画案・予算案の読み上げ後、出席者の拍手をもって可決され無事終了しました。

そして選考委員会報告では引き続き時田会長に会長職を一任する報告があり満場一致、拍手をもって承認されました。その後、時田会長から新役員紹介を頂きました。

新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行に伴い、コロナを気にしながらも世の中が動き出しています。文更女としても事業計画が会長のモットーである『元気で仲良く明るく』の元で実施でき、そして誰かの一助となることを願ってやみません。

最後になりましたが、福祉政策課の皆様方には常日頃大変お世話になり感謝申し上げます。

出村美子



成澤文京区長



チェロユニット『Duo Sawa-Ri』



本富士班 深野幸江

公園の植え込みの縁周りに植えられているヤブランの色鮮やかな黄緑の新しい葉が、日の光を存分に受けて輝いている。

皆さんはヤブランをご存じだろうか。ヤブランは宿根草で、水仙のような細い葉が根本からたくさん出る。秋には紫色の長い穂の花を咲かせる。春になると葉の中心からニョキニョキと新しい葉が生えてくる。すつくと立った姿は美しい。古い葉は一年以上経過した葉なのできれいではない。その地際の古い葉を切ると、新しい葉のきれいさがより際だつた。

5月の初旬にやっと古い葉を切り終えた。2月から始めたが、今年はずっと暖かい日が多かったせいか新

葉の伸びるのが早かった。古い葉を切るのは新葉が短い内は楽だが、伸びてしまうと新葉を切らないうように気をつけるのが一苦労だ。

4年前から頼まれて夫婦で行っている週1回朝の公園掃除の春の仕事が終わった。今年もホッと一息できる時が来た。



駒込班 武智弘英

「あたりまえ」が「ありがたい」

コロナ感染症が2類から5類に移行し、ホッと一息したいところですが、コロナ禍以前の「あたりまえ」の生活に戻るには、まだ時間が必要です。コロナ禍で身についたマスク着用の習慣からの脱却、多人数が集まる場所へのお出かけや会食等に抵抗感を抱く方は、まだまだ多くいらつしやることでしょう。

今後、自粛していた施設見学や研修会、学校行事やお祭り等の地域行事も通常通り開催され、参加する機会も増えると思いますが、コロナ禍で身についた手洗い嗽といった基本的な感染対策を継続し、コロナ禍前の「あたりまえ」の日常に戻す努力をして行きましょう。

マスク越しでしかお会いしたことの無い方とも気にせず会話が出来る、マスク越しではない笑顔が見られる日常が早く訪れることを願いつつ、ウクライナとロシアの戦争終結、各国の内戦が無くなり、世界の人々が平和で「あたりまえ」な日常生活を送れるよう祈ります。

「あたりまえ」の一日が送れたことに感謝して、今日もホッと眠りつきます。Zzzzzz...



あとがき

今年の春は異常に暖かく、花の開花が例年より一段と早まった気がします。

桜と言えば入学式の花でしたが、今は卒業式の花となりつつあります。

根津神社のつつじも随分と早く見ごろを迎えました。近所のジャスミンも、かわいい白い花が咲き香しい匂いがすると思ったら、あつという間にしぼんでしまいました。異常気象や地球温暖化を身近に感じました。

本年度は文京区保護司会がおかげ様で70周年を迎えます。ご寄稿くださる方々はもとより、地域の方々のご協力に支えられています。

これからも本誌が、幅広くいろいろな方に読んでいただける広報誌となることを目指し、努力を続けていきたいと思えます。

大橋喜子

〈広報部〉 森山 堀内 山田 大橋 米岡

浅川 根尾 岸田 岡崎 西川
塩川 市原 菊川

情報 第五七九号

編集 文京区保護司会 広報部

発行人 文京区保護司会会長 亀田一良

事務局 文京区春日一―一六―二一

文京区役所福祉政策課内

印刷所 企画・宣伝協同組合

エコフィールド事業本部